

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

26 (通巻30号)

平成18年12月28日発行

目次

30号記念特集

北海道の図書館を支えてきた先輩司書からのメッセージ

創刊30号にあたって.....	1
「もっと図書館をPRしよう！」 浦河町立図書館 小野寺信子 さん.....	2
18年目の春 江別市情報図書館 津田道子 さん.....	3
地域の新たな資料を生み出すために、 「新聞や資料」の保存と蓄積を 根室市図書館 谷村和子 さん.....	4
『図書館』からの脱出 市立留萌図書館 土井道子 さん.....	5
Do-Links (北海道立図書館情報検索リンク集) 掲載！	6
Do-Links を使ってみて... ..	8
困ったときは、まず Do-Links！ 新得町図書館 菊地幸一 さん	
まだ私はこのリンク集の底力を知らない 由仁町ゆめっく館 池田聡美 さん	
多様化する課題解決支援のために 滝川市立図書館 中寺静江 さん	
Do-Re 連載目次一覧 創刊 ~ 29号	9
News	13
1 平成18年度上川管内図書館協議会研究集会開催！	
2 深川市立図書館、「住民基本台帳カード」を「図書館利用者カード」として活用中！	
3 帯広市図書館が「食文化 com.」をホームページに掲載！	
4 国立国会図書館複写メニュー・料金の一部変更について	
5 日本図書館協会、政策提言をホームページに掲載！	
6 第10回資料保存研修テキストをホームページに掲載！	
7 (財)北海道立文学館、高校用副教材作製！	
8 市立釧路図書館、来年4月に図書検索・貸出予約開始！	
9 平成18年度第5・6回道民カレッジ連携講座 - 能力開発コース - 開催！	
10 文化の日「書庫ツアー」大盛況！	
11 市町村図書館職員レファレンス体験研修・開催中！	
12 平成18年度全国公共図書館児童・青少年部門研究集会終了！	
編集後記	15



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

創刊30号にあたって

当誌『Do-Re』は、平成12年10月にテスト版として創刊しました。

以来、まる6年を経て、今回通巻30号の発行に至りました。

この間、当課の歴代職員はともあれ、市町村図書館(等)職員の皆様からも多大なご協力をいただき、お陰をもって充実した誌面をご覧いただくことができました。

ご多用中にも関わらず、快く原稿をお寄せいただいた方々に、改めてお礼を申し上げます。

さて、当誌では節目毎に記念号を企画してきましたが、30号となる今回は「北海道の図書館を支えてきた先輩司書からのメッセージ」と題して、4名の方々から寄稿していただきました。

市町村合併や図書館運営方式をめぐる問題などにより、公共図書館サービスの変質が懸念される昨今、永年にわたり地域の図書館を育み支えてこられた先輩司書の皆さんから、熱いメッセージをいただこうと意図したものです。

また、11月1日の「北海道教育の日」を期して当館ホームページに掲載した「Do-Links」(北海道立図書館情報検索リンク集)について、実際に使ってみての感想を3名の方々から寄せていただきました。

このリンク集については、今後も拡充を予定しておりますが、市町村の皆様にはご活用いただいたうえでのご意見、ご要望をお寄せくださいますようお願いいたします。

なお、「Do-Re 連載目次一覧」では4つの連載枠とその他、外部に執筆をお願いした文章の一覧をまとめました。

6年間の蓄積に思いを致すとともに、市町村の皆様にも参考にさせていただけるものと思っております。

当誌は、道内公共図書館等の現場との交流を基盤に、レファレンスサービスの普及とレベルアップに役立つことを願って、様々に知恵を絞って発行してきました。

今後とも、読者の皆様からの声に耳を傾け、内容の充実に努力して参りたいと考えておりますので、なお一層のご声援、ご協力をお願いします。

参考調査課一同

「もっともっと図書館をPRしよう！」

浦河町立図書館 小野寺 信子 さん

昨年、ニューヨークの科学産業ビジネス図書館（以下略称「シブル」）に行く機会があった。シブルでは日本の図書館員の誰もが羨むサービスをしている。菅谷明子さんが「未来をつくる図書館」に紹介している通りだ。シブルでは閲覧席にコンピュータが並び、検索方法を教えてもらうことも出来れば、自由に150種余の商業データベースに接続することができる。接続料金は図書館の負担だ。データベースを自分のコンピュータに取り込むことも可能で、役に立つ最新最高の情報を利用者は入手することができる。

それもこれもお金があるからできる事で、うちらはとて、と言われるかもしれないが、シブルの運営費の60%は寄附で賄われていることをご存知だろうか。

館長は私たちを地階の多目的スペースに案内してくれた。その時はパネル展をやっていたが、館長は「ここで年に7回、ひとり1,000ドルの朝食会が開かれます」と言う。つまり図書館で朝食会を開き、そこに集まった方からひとり10万円余の寄付を頂くというのだ。そればかりでなく、大口寄附も募っている。シブルの閲覧室はカルマン夫妻の寄附に拠って作られたものだ。「かつてレファレンス担当の司書は5名おりました。でも今は2名です。あとの3人は外に出て図書館をPRしたり図書館への支援を求める活動をしてもらっております」。このように市民に働きかけ、足りないお金は自分たちで集め、役に立つ資料と情報を市民に提供している。そこまで図書館員が作りあげているのだった。

アメリカの図書館は貸出数も多いがそれと同数、あるいはそれ以上のレファレンス件数があると聞いていた。随分前になるがロサンゼルス市の図書館に行ったとき、電話でのレファレンスに対応する為に専用の部屋に6人のスタッフがいて、次々かかる電話に対応していた。まだインターネットが普及する前だったが、交通事故での過去最高の賠償額は幾らかという質問に、ニューヨークの新聞社から即ファックスで資料を取り寄せ、回答していた。

来館せずに電話で気軽に問い合わせる人も多いというこのアメリカのレファレンスの多さ、日本の図書館とのちがいは何なのだろう？と考えてみた。

かつてアメリカへ移住した人々は新しい国で生活する為に図書館が必要だった。ある人は自分の蔵書を公開し、ある人たちはお金を出し合って図書館をつくった。鋼鉄王カーネギーの寄付もあって、その後アメリカでは図書館が整備され、ライブラリアンになるには大学院に就いて勉強することが求められた。こうして自分たちが真に利用したい図書館を作りあげていった。図書館では資料を借りるだけでなく、口頭でも電話でも質問したら調べてもらえることが当たり前のこととして、人びとの頭の中にインプットされているのだ。

中小レポートや市民の図書館を機に、日本の図書館は利用者を増やしていった。しかし、社会的評価はいまひとつ得られていない。自治体における存在の小ささ、専門職員の少なさ、資料費の少なさ、それに北海道ではまだ図書館のない自治体が半数近くある。

アメリカと日本のレファレンス件数の違い、それはやはり図書館に対する信頼度の違いなのだ。私たちはいま一歩人びとの生活の中に図書館が浸透するために、もっともっと外にむかって図書館の存在をPRしなくてはならない！そしてもっともっと専門職として自分を磨き、力をつけなければならない。できうることなら大いなる理想をもって前進を！

18年目の春

江別市情報図書館 津田 道子 さん

平成 13 年道立図書館で「市町村図書館職員レファレンス体験研修」が始まった時、当館の司書が研修を受けることになった。事前に宿題を与えられて大変そうではあったが、受講者がカリキュラム内容を希望することが出来るので、より能動的な研修参加となった。また、今まで自館の資料では調べきれなかった事など、道立図書館の資料を知ったことで、レファレンスの対応の幅が広がった。なにより道立図書館がより身近に感じられるようになったと言い、是非続けてほしいと話していたが、今も続けていると聞き、今後も永く続けてほしいと願っている。

もちろん本人の資質ややる気の問題もあるが、日常業務に追われ、まして北海道では研修を受ける機会が少ない中で、こうした実践研修はととてもありがたい。

一方的に聴く講義型の研修ではなく、業務に直結した実践的な研修や、各図書館が抱えている問題をテーマにした討議など、実際に応用できるような研修の機会が多ければ良いと思いながら、こうした企画実施にあたる道立図書館の職員のご苦勞を考えると、つい声も小さくなってしまう。

江別市は、道立図書館が市内にあることで恩恵に浴している。有志が集まる勉強会などでも、道立図書館の貴重な資料を見せていただいたり、使わせていただいたり、地の利がなせる技でとても感謝している。また、利用者が急いでいる場合などは、「道立図書館に所蔵がありますので、直接行かれてはいかがでしょう」と言える強みがある。

江別市情報図書館は平成元年の 8 月にオープンし、18 年目の春を迎えようとしている。私自身、開館間もない 11 月からの務めとなった。当初からレファレンス・カウンターは独立して設置されていた。当時はレファレンス・カウンターも、今とは違ってのどかなものであったように思う。時には回答に悩み上司に助けを求めるレファレンスもあったが、所蔵照会や読書相談などが大半を占めた。

私が図書館員になって日も浅い頃、レファレンス・カウンターに居たとき、近くにお住まいだという年輩の女性がカウンターを訪れ、「昔の野幌の本はあるのかい？」と、親しげに声をかけて来られ、緊張しながらアレ・コレ探して提供した。「ヘー、こう言う本あるんだねー」といいながら、ぱらぱらと本をめくっていたが、そのうち「図書館ができたって聞いてさ、来てみたんだけど、色んな本あるんだねえ。私はねその 2 番通りの・・・」と話し始めた。古くからこのあたりに住んでおられる方らしい。

「昔はねえ、八丁目の坂もさ、もっと勾配がきつくて自転車でのぼるのが大変だったんだよ。八丁目のあのへんはレンガ場があってね、わたしらも出面にいったさ・・・」

優に 40 分くらいは話して行かれたと思う。その後、年輩の男性も同じように昔話を話していかれたことがあった。当時は「話を聞くことも仕事」と、「ハアーそうですかー」などと相槌を打ちながらただ聞くばかりであった。今考えると、それらの思い出話を記録に残しておけば、野幌の昔を知る貴重な資料になり得たかもしれないなどと、非常に残念に思うこの頃である。

地域の新たな資料を生み出すために、「新聞や資料」の保存と蓄積を

根室市図書館 谷村 和子 さん

根室市図書館では、昭和 25 年から現在まで、50 年以上の『根室新聞』を所蔵している。古い公民館時代の火事騒ぎで一部を失い最初のころの分に欠号があるが、火事をくぐり抜け、移転でも致命的な損傷をなんとか免れ受け継がれてきた。今は当時 1 個 300 円ほどで作ってもらった特注の段ボール箱に 1 年ごとに収められて、すぐに取り出すことができ、日常的に使われている。その当時の手掛かりを得ようとすれば随分と重宝な資料だ。

7 年の歳月をかけて発行された『根室千島歴史人名事典』(2002 年 3 月)のときも、『根室新聞』は大活躍した。根室新聞に掲載された聞き書きの「根室むかしむかし」は、25 年ほど前に根室に在住していた人の話だが、今はもう、かなりの人がいない。

また、『根室千島歴史人名事典』を発行するために作られた『総目録』(B4 判 5 分冊 963p)で根室管内に関わる人物の名前を引くと、何という本の何ページに記載ありということがすぐに判る。これについては、北海道史研究協議会の『会報 58 号』(1996 年 6 月)に、「根室・千島の人名索引 基本カード作業を手伝って」と題した随想が載っている。郷土関係の人物がどこに載っているかを探すのは本当に大変だったので、この優れたものの「人物索引」にはいつも感謝して使っている。

保存している『北海道新聞・根室版』からは、根室の人が生きたその時代を浮き彫りにする「名作」も生まれた。戦時中飛行場を作るために強制労働させられた朝鮮人受難をレポートした「牧之内哀歌」などもそうだ。ここに書かれた歴史の痕跡は、根室生まれの美術家を通して戦後 60 年の記憶として搾り取られ、時代を省みる資料となった。

新聞は、記念誌を作るときなど役立つことは勿論だが、自分史にまつわる情報を新聞から探し出して長年の苦しみから解放されたという人もいることも聞いたし、根室では拿捕や北方領土問題に関わる当時の記事が重大な意味を持つこともあるのだ。

私たちは、利用者からの問い合わせや対話などで資料への理解を深めていくことが多いが、最近の効率だけで価値を決めつけたり図書館専門職を安易に異動させたりする傾向から、資料の保存に危機感を抱いている。

『根室新聞』については、段ボールの保管箱が劣化を防いでいるが、他の新聞の保管には頭を悩ませている。中には他の施設で保管しているものもある。図書館に関わる年月が長い程、郷土資料のレファレンスに関わる回数が多くなる程、「新聞保存は何年まで」と、あっさりと割り切ることができない。

先頃、個人的にも相当量の資料を持っていて検索能力にも優れた人が根室関係の資料を探しにきた。あれこれ探し回ってもとうとう見つけれなかったのだが、その人は、「根室市図書館って、時々とんでもない資料に出会える」と言うのだ。資料に期待が持てる図書館と評価してくれたようで、長い年月あれこれと集めて保存してきたことが認められたと思えてうれしくなった。

新聞を含めて古い資料を安全に保存するために、書架や保管場所を確保する解決策を見いだせずにいるが、昔を掘り起こし、今の時代を見つめ、今に生かすために保管してきた資料が役立つのは本当にうれしいことである。

『図書館』からの脱出

市立留萌図書館 土井 道子 さん

いままでの思い

このごろ、図書館という単語を見ると、ふと逃げ出したくなる自分にあきれている。なぜか。

ひとつには、長年公立図書館の奉仕業務に携わり、一生懸命自身のためにも市民の学習にも図書館が必要という認識の下に働き続けてきたが、図書館員の仕事熱心な思いは角度を違えて見ると、それが返って一般職から反発になって理解されにくく疎んじられているのではないかと感じる場面が多くなったのである。

市民とのコミュニケーションがうまくいっていると自負しても、一緒にはたらく同僚から、図書館勤務がきつく楽しく思われないという表情が気になってしまう。

そんなときに頭を掠めるのは、図書館に勤務して数年後、なんとか図書館の仕事を探りたいとヨーロッパの図書館視察に参加したとき、フランスの児童図書館員が予定時間をすぎても持論の児童文学論をまくし立てた場面である。

参加したある日本男性が、「どうして女の図書館員は持論ばかりを押し付けるのか、もっと惹きつける力をもっていればな」と呟いた。

数年前に、わが図書館では解決できず、道立図書館のベテラン参考調査課職員に依頼したことで、その事項の返答がまことに丁寧で、これぞ図書館員の模範と他の職員に紹介したら、驚きの声でこんなこと普通の職員はできない、ここまでサービスをしなくてもいいのではと引かれてしまった。

私は、誰がなんと言おうと自分が納得いく図書館の仕事を精一杯やることもとても大切なことと思っているが、組織的に誰もが図書館ではたらく喜びや市民の図書館に対する希望を叶えていくようにしていくことが今の課題ではと感じるようになった。

これから

昨年、北広島市で開催されたデジタルライブラリアン（DL）研修会に参加した。

研修の負担金は一人3万円であり、20名の図書館員が出席（道内だけではなく）した。

かつてこのようなかたちの研修会が北海道にあったらどうか。

児童奉仕やレファレンス研修にはない、パソコンと向き合った3日間であった。ある県立図書館の管理職である講師は、自身が作成したホームページをみせながら、司書はただ勉強が大事だと常々おっしゃるけれど、図書館がおもしろいところだと見せられる器量を備えなければと強く諭していた。

私は、これから図書館で働く職員は、本の知識は当然もっていることは不可欠であるが、もし図書知識が不足している職員でも、時代に通用する図書情報を探し出して提供するスキルを持っていれば、持たせたいという図書館の管理者がいれば、いろんな特技を持つ職員が図書館で必要とされ、利用者に頼られる人材が育っていく図書館になるのではと思う。

このようなことをいえば、司書資格を持った職員から批判も出てこようが、図書館は司書だけが専門職として鎮座するところではないと考えるからである。

司書の熱意が、他の職員や市民、利用者と連動していくことが大切なのである。

指定管理者や民間委託が図書館サービスの低下につながらないように、自治体に働く公務員として今最低限何が必要でどう取り組み、自身の業務のスキルをどう磨いていくかがもっと切実に問われなければならない。

今年の11月、道立図書館参考調査課の宮本浩さんが手がけた「本を探すリンク集」の構築は、図書館員にとっても、情報を探す道民にとっても快挙といえる作業であった。このような図書館員が存在することで、自分ができないことを嘆くのではなく、知る楽しみを市民に提供できる喜びを持たせたこと、図書館というキーワードから脱却して少しでも広い世界に視野を広げられることを大切にしていきたい。

Do-Links (北海道立図書館情報検索リンク集) 掲載!

11月1日、今年度制定された「北海道教育の日」に、かねてから作成中のリンク集をホームページに掲載しました。皆さん使っていただいていますか？

当リンク集の構想は、昨年受講した「デジタル・ライブラリアン講習会 北海道短期集中コース」の成果を何らかの形にすべく、構想から約1年コツコツと情報を収集し作成したものです。最大の特徴は、リンクしているサイト数にあります。現在は2,500サイトを超えました。特に「全国の専門図書館・研究機関等」と「主題別データベース」は国内最大と自負しています。また、平成16年度科学技術資料研修（国立国会図書館）受講の成果を反映した「科学技術資料」のカテゴリーも、公共図書館の中では最も充実しています。

項目は3つに分けてまとめました。「本や雑誌などの資料を探すサイト」は、当館でいう“所蔵(館)調査”、「調査・研究お役立ちサイト」は、“事項調査”として活用できます。また、「学校図書館向けお役立ちサイト」には、子ども用のサイトを含んでいます。

さて、このリンク集を上手く使いこなすコツですが、カテゴリーを把握した上で、それぞれのサイトの中味をよく知ることにあります。まずは、リンクされているサイトをどんどん開いてみてください。

図書館の所蔵資料とあわせてDo-Linksをレファレンスに活用しましょう。

カテゴリーの更新・追加・修正は随時行っています。

Do-Links 北海道立図書館情報検索リンク集 Site-map

本や雑誌などの資料を探すサイト（図書館の蔵書や出版情報の調査）

図書館の蔵書

- 北海道の公立図書館
- 北海道の大学図書館
- 北海道の専門図書館・研究機関等
- 都府県立図書館と都府県内横断検索
- NDL-OPA
- 全国の専門図書館・研究機関等
- 日本国内の大学図書館関係個人文庫

市立図書館

町立図書館

公民館図書室等

横断検索・総合目録

国・公立大

私立大学

高等専門学校

横断検索

東北

関東

甲信越・北陸

東海

近畿

中国

四国

九州

総合目録・横断検索等

総合(博物館)

著作権

宗教・哲学

歴史・地理

国際関係

行政・法律

経済・経営

統計

生活・住宅

労働・人権

福祉

児童・教育

自然科学

医学

環境科学

工業・産業技術

土木・建築

製造業・家事

農林水産業

商業・交通

美術・演劇

映画・音楽

スポーツ

言語・文学

新刊書 (出版情報)

本を探す

オンライン書店

書評

出版社

北海道の出版社

電子出版

情報誌

オンデマンド出版

自費出版

児童書

洋書

雑誌

雑誌の出版情報

雑誌の目次

雑誌記事索引

オープンアクセス

和古書・漢籍

政府刊行物関係

主題別データベース

哲学・心理学・宗教

歴史・地理

社会科学

教育

自然科学

医学

技術・産業

芸術

言語・文学

科学技術資料

- 科学研究費補助金 研究成果報告書
- 博士学位論文
- 欧文会議録
- 規格
- テクニカルレポート
- 学協会ペーパー
- 特許
- 雑誌

古本

まんが・コミック

新聞

- 北海道の新聞社

楽譜・CD・DVD

- 総合
- 楽譜
- CD・DVD

電子書籍

教科書

- 教科書出版社

内容から本を探す

調査・研究お役立ちサイト

図書館関係団体等

- 図書館関係
- 協会・協議会・法人等
- 学会
- 研究会等
- 関連企業
- その他の団体・機関等(リンク集)

著作権

百科事典・検索エンジン
総合的リンク集

- 百科事典・総合情報
- データベースのリンク集
- 検索エンジン
- 総合的リンク集
- プロバイダ(大手)

Q&Aサイト

ニュース

法令・条例

- 基本サイト
- 分野別
- 官公庁・機関・団体
- 法律相談
- 学会
- その他

判例

統計情報

- 基本サイト
- 関係機関・団体等
- 北海道関係

自治体・官公庁関係

辞書・翻訳

- 英和・和英
- 国語・漢字
- 医学
- パソコン
- 自然科学
- 環境・技術
- 農林水産業
- 運輸・交通
- 政治・経済
- 生活
- メディア
- その他
- 総合・リンク集

医療・健康情報

- 総合情報
- くすりの情報
- 病院・医師情報
- 救急の情報
- 診療科目別情報
- 学術・専門情報
- 官公庁・機関・団体等
- 患者団体・闘病記
- 医療事故
- 北海道の機関・団体

福祉情報

- 総合情報
- 高齢者福祉
- 障害者福祉
- 児童福祉
- 関連機器
- ボランティア
- 年金等
- 学会・教育機関
- 官公庁・機関・団体
- 助成団体
- 北海道の機関・団体等

学校図書館向けお役立ちサイト

出版情報を調べる

児童書出版社

官公庁子ども向けのサイト

子ども向け検索エンジン・リンク集

企業等の子ども向けサイト

北海道の子ども向けサイト

関連団体

Do-Links を使ってみて...。

困ったときは、まず Do - Links !

新得町図書館 菊地 幸一 さん

高度情報化社会の中、今やレファレンス業務でのインターネット利用は必要不可欠となっており、利用者からは、様々なデータベースを使ってより迅速・的確な図書館サービスの提供が求められています。インターネット上のデータベースは、特に利用者からの問いに、全く解決の方向がみえないときなどは、とっかかりとして非常に有効ですが、一方でどの検索エンジン、データベースを使用するかが問題解決への道のりの重要な分岐点となるため、特に経験の浅い職員にとっては悩むところです。そんな悩みを解決してくれる手段のひとつが、今回、参考調査課が作成したDo-Linksです。カテゴリー別に整理されたデータベースは、ツリー形式で非常に使いやすくなっており、ぜひお気に入りに登録しておきたいデータベースです。今後は、さらにリンク先を増やすとともに、また、日々更新されているWeb上の情報を、まめに更新することによって、常に新しい情報を提供することを期待します。そして、どんなにすばらしいデータベースでも、使われなければ何にもなりません。みんなで使い、意見、要望を出し合い、さらにより良いものにしていきましょう。

まだ私はこのリンク集の底力を知らない

由仁町ゆめつく館 池田 聡美 さん

資料費が十分ではなく、参考図書を揃えるのも毎年数冊ずつ...というわが町に心強い助っ人が現れた。その名も「Do-Links」。

今年の夏、道立図書館で市町村図書館職員レファレンス体験研修に参加したのだが、事前に「統計分野に弱いので特訓希望」とお伝えしていた私に用意されていたのが、ほぼ完成されつつあった「Do-Links」だったのだ。M氏から次々と説明される役立つサイト軍団を前に「ああ、もっと早く出合っていたら、あの問題もすぐに解決できたのに...」とうなだれる。

しかし、これからは心配ないのである。「Do-Links」が現れた。気になる分野などは一通りチェックしたが、まだ私はこのリンク集の底力を知らない。だから、今後やってくるレファレンスが非常に楽しみである。

多様化する課題解決支援のために

滝川市立図書館 中寺 静江 さん

私も図書館員になって1年が経ち、これまでの短い経験と資料の記憶を基に、資料・情報等を提供してきましたが、知識の乏しさゆえ「もっとほかの資料・情報を提供できたのでは・・・」と、利用者が本当に満足できるものを提供できているのかとても不安でした。過日受講した市町村図書館職員レファレンス体験研修では、レファレンスの秘訣やインターネットを活用したいろいろな情報入手法がある事を知り、未熟な自分にも何とかレファレンス対応ができるのではないかと、一筋の光がさしこんだ気がしています。

また11月からは、道立図書館のホームページに情報検索リンク集ができました。使い勝手の良い項目にまとめられ容易にインターネット情報を得ることができます。更新も頻繁にされているようですね。

今後、ますます多様化する利用者の課題解決支援のためにも、利用者とのコミュニケーションを図り、求める事項等を十分に把握し、インターネットの活用はもちろんのこと、道立図書館をはじめ他の機関との連携を密にして、情報の収集やスムーズな提供ができるように取り組んでいきたいと思っています。

リンク集の益々の充実に期待します。

Do-Re 連載目次一覧 創刊 ~ 29 号

こんなのきました / こんなのあります / Librarian s Box / 市町村からの発信・外部執筆者一覧

平成 12 年 10 月にテスト版として創刊されてから約 6 年、今号で通巻 30 号となりました。創刊から 29 号までの主な 4 つの連載と外部の執筆者を一覧にまとめました。『Do-Re』を振り返るとともに事例集としてもご活用ください。執筆にご協力いただいた多数の皆様には、心から感謝申し上げます。

連載 こんなのきました 参考調査課によせられたレファレンス 掲載号数

1 国民学校時代(昭和 16 年)の教科書を探している	No. 1
2 本当にあるの? ~「君が代」の 2 番~ 《番外編》二千元札のこと	"
3 高嶋哲夫のデビュー作『帰国』が読みたい	No. 3
4 ナポレオン・ヒルの『思考は現実化する』の書誌は...	"
5 「隣人」重松清著は、所蔵されているか	"
6 「テロリストのパスカル」藤原伊織著とは...	"
7 「A Man Named Dave」デイヴ・ペルザー著の邦訳は、出版されているの?	"
8 思い出のあの歌は...	No. 1 通巻 5 号
9 「太政官布告」のこと	"
10 アウトドアは手作りです	No. 2 通巻 6 号
11 今年もこの季節になりました	"
12 豆が腐って豆腐? 納豆?	No. 3 通巻 7 号
13 求められた資料は、何が何でも探し出すぞ!! 「銀の鶴」(本田一弘著 雁書館 2000) 「パッチワークの世界 山口怜子作品展」(山口怜子著 朝日新聞社)	"
14 農村家庭で購入した 1 年間のお茶とコーヒー代って?	No. 7 通巻 11 号
15 14 年後に 馬鹿 と再会したはなし	No. 8 通巻 12 号
16 君の名(書名)は...? たかが所蔵調査、されど所蔵調査の巻 「人間の意味の探求」(ヴィクトル・E・フランクフル/著)という本を探している	No. 10 通巻 14 号
17 キーワード探しが決め手です ほか 新聞にまつわる話あれこれ	No. 12 通巻 16 号
18 “カンノミズ”ってどんな水? 《番外編》あれから 300 年、忠臣蔵始末記	No. 13 通巻 17 号
19 “ ” は、なに?	"
19 “ ” は、なに?	No. 14 通巻 18 号
20 春はやっぱり「桜餅」だった!	No. 15 通巻 19 号
21 文学賞受賞作を探せ!	No. 17 通巻 21 号
22 他機関への照会のススメ ~利用者のためにできること~	No. 18 通巻 22 号
23 GHQ(占領軍総司令部)を調べる	No. 19 通巻 23 号
24 ああ~日本のどこかに~ ~ “何でもわかる図書館”をめざす~	No. 21 通巻 25 号
25 加茂河のかじかしらずや都人 ~魚の名前を調べる~	No. 22 通巻 26 号
26 大切にしたい思い出を図書館の資料で	No. 23 通巻 27 号
27 わかりそうで、わからない文学作品名...	No. 25 通巻 29 号

連載 こんなのあります いちおしレファレンスブック

掲載号数

1 「松本清張事典」(歴史と文学の会編 勉誠出版 1998)	No. 1
2 「和英・英和タイトル情報辞典」(小学館 1997)	No. 1 通巻 5号
3 「理科年表」(丸善 大正14~)	No. 2 通巻 6号
4 「民力」と「日本国勢図会」と	No. 3 通巻 7号
5 「国語に出てくる作品」を探せ!	No. 7 通巻 11号
6 児童図書は侮れないぞ!	No. 8 通巻 12号
7 “書き順”なら私たちにおまかせ!!	No. 10 通巻 14号
《番外編》「北海道雑誌新聞総合目録」を発行しました!	No. 11 通巻 15号
8 法律の調べ物は、これで良い・これが良い!	No. 12 通巻 16号
9 “新選組”を調べる	No. 14 通巻 18号
10 屋号の読みを調べる	No. 15 通巻 19号
11 《インターネット編》オンライン書店で「本を探す、選ぶ、買う」	No. 17 通巻 21号
12 実践的図書館用語辞典を推す	No. 18 通巻 22号
13 コレであなたも、こどもの本の探偵に!?	No. 19 通巻 23号
14 世界の妖精・怪物を調べる	No. 21 通巻 25号
15 仕事に使える便利なツール	No. 22 通巻 26号
16 懐かしの歌を探す	No. 23 通巻 27号
17 明治期の資料は『近代デジタルライブラリー』で見る	No. 24 通巻 28号
18 『松本清張事典決定版』(郷原宏著 角川学芸出版 2005.4)	No. 25 通巻 29号

連載 Librarian s Box (ししょぼこ)

掲載号数

1 「日本全国書誌」サンプル版 ホームページで公開 豊田市中央図書館『自動車資料コーナー』 ホームページから検索も可	No. 3 通巻 7号
2 ステップアップのためのレファレンスビデオを見る - 道立図書館所蔵ビデオから -	No. 7 通巻 11号
3 「まちの図書館」 (『まちの図書館でしらべる』編集委員会/編 柏書房 2002年1月刊)を読み解く	No. 8 通巻 12号
4 私の図書館(or私)の《お気に入り》に入っているHPはこれだ!!	No. 10 通巻 14号
5 「レファレンスあれこれ」記事名一覧	No. 12 通巻 16号
6 図書館とJISの意外な関係	No. 13 通巻 17号
7 「情報大航海術 テーマのつかひ方・情報の調べ方・情報のまとめ方」(片岡則夫/著 リブリオ出版 1997)の効用	No. 15 通巻 19号
8 「図書館に刊け!」(井上真琴/著 筑摩書房 2004.8 ちくま新書)に刊け!	No. 17 通巻 21号
9 国立国会図書館HP「雑誌記事索引の検索」を使いこなそう!	No. 18 通巻 22号
10 個人情報保護と図書館資料	No. 19 通巻 23号
11 『大日本史料』の利用 - 東京大学史料編纂所データベースの紹介	No. 21 通巻 25号
12 「規格外資料」を調べる	No. 22 通巻 26号
13 翻刻資料の探し方 - 日本史を中心に -	No. 23 通巻 27号
14 インターネットで『官報』が身近に	No. 24 通巻 28号

連載 市町村からの発信

掲載号数

1 IT時代でもフェイス ツウ フェイス	旭川市中央図書館	松田 有司さん	No.1 通巻5号
2 あれっ? Do-Re これっ!	江差町図書館	福島 智子さん	No.3 通巻7号
レファレンス体験研修の魅力(必要?)	石狩市民図書館	清水 千晴さん	"
3 レファレンス研修を受講して	穂別町立図書館	佐々木敦子さん	No.5 通巻9号
4 札幌市中央図書館相談カウンターの設置について	札幌市中央図書館	武田 雅史さん	No.7 通巻11号
道立図書館レファレンス体験研修に参加して	江別市情報図書館	斉藤 寿子さん	"
5 図書館耳袋	門別町図書館郷土資料館	安藤 整子さん	No.8 通巻12号
6 2年目館長奮闘すの巻	市立北見図書館	安田 憲史さん	No.10 通巻14号
7 うれし・たのし・大好き = 利用者の笑顔	由仁町ゆめっく館	佐々木聡美さん	No.12 通巻16号
8 国境の街の図書館員《手記》	根室市図書館	浅野 正弘さん	No.14 通巻18号
9 レファレンス研修は“タノシイ”?	上磯町立図書館	藤井 利明さん	No.15 通巻19号
10 弟子屈の“キンムトー”は間違い?	弟子屈町図書館	熊谷 早織さん	No.17 通巻21号
11 小さな小さな図書室より ~私にできる小さなこと~	忠類村ふれあいセンター福寿図書室	福田 真希さん	No.19 通巻23号
12 レファレンスを知ってもらおう ~中小図書館のちいさな取り組み~	砂川市図書館	工藤 雅子さん	No.21 通巻25号
13 どうしてますか? 実習生	苫小牧市立中央図書館	北畠 靖英さん	No.22 通巻26号
14 レファレンスに王道なし	登別市立図書館	清野 良憲さん	No.23 通巻27号
15 高田富與の江戸時代	江別市情報図書館	佐々木孝一さん	No.24 通巻28号
16 「図書館にも個室が欲しい!」	東神楽町 メモリアルホール	加藤美砂子さん	No.25 通巻29号

その他 外部執筆者一覧

掲載号数

レファレンス体験研修を終えて (インタビュー)	江別市情報図書館	城川 美紀さん	No.2 通巻6号
図書館のリカレント教育「Do-Re」に期待!	札幌静修高等学校	渡辺 重夫さん	No.5 通巻9号
文書資料を主な題材として	北海道立文書館	山田 博司さん	No.9 通巻13号
まち・むらのレファレンスを考える ~ 網走ブロックの事例を元に ~	常呂町中央公民館	加藤 孝さん	"
セルフレファレンスの楽しさを伝えたい	江別市在住	山崎 敏晴さん	No.13 通巻17号
「Do-Re 通巻20号 読者の皆さんによる特別号」 市町村発! こんなのきました			
・地元ならではのレファレンス	幕別町図書館	木村 園美さん	No.16 通巻20号
・羅臼昆布が製品になるまで	羅臼町公民館図書室	菊地理恵子さん	"
・二宮金次郎はどこに...。	北広島市図書館	蛸名 優子さん	"
市町村発! こんなのあります (レファレンスブック編)			
・「読み」を調べる	旭川市中央図書館	稲荷 桂司さん	No.16 通巻20号
・「民俗語彙」を調べる	帯広市図書館	笠井 典子さん	"
・「登場人物」を調べる	苫小牧市立中央図書館	北畠 靖英さん	"
・「遊楽部の開拓」を調べる	八雲町立図書館	佐々木一也さん	"
・「歴史」を調べる	留辺蘂町立図書館	大林 清司さん	"

市町村発！こんながあります（インターネット編）			
・いい歌を歌うために！	新得町図書館	菊地 幸一さん	No.16 通巻 20 号
・雑誌・新聞なんでもござれ！	石狩市民図書館	清水 千晴さん	＼
・国の統計から地元の情報まで	江別市情報図書館	難波 道子さん	＼
・司書の仕事はいろいろ...	恵庭市立図書館恵庭分館	本間 洋一さん	＼
・困ったときにはやはり「Google」！	奈井江町図書館	栗原 真実さん	＼
Do-Reを評する！			
・「Do-Re」の茶目っ気に期待しています	訓子府町図書館	山田 洋通さん	No.16 通巻 20 号
・レファレンス事例の交流を	旭川市東光図書館	杉山 一彦さん	＼
・たかが「索引」、されど「索引」	福島県立図書館	吉田 和紀さん	＼
・何度もひもとく便利帖	くにたち中央図書館 （東京都）	藤村せつ子さん	＼
・輝け北海道！羽ばたけ「Do-Re」！	小平市中央図書館 （東京都）	蛭田 廣一さん	＼
・「Do-Re」におけるレファレンスのこころ	藤女子大学	下田 尊久さん	＼
・「しらべま専科」と「Do-Re」がゴールド・メダル	富士大学	斎藤 文男さん	＼
学校司書の匙加減	札幌手稲高等学校	山本 裕子さん	No.17 通巻 21 号
「特集 相互貸借とリクエスト・サービスを考える」			
・リクエストと相互貸借を考えてみた	旭川市中央図書館	中山 恒介さん	No.19 通巻 23 号
・当館における相互貸借のあらまし	本の森厚岸情報館	余西 弘希さん	＼
・図書館は利用者の全ての要望に応えなくては ならないのか？	音更町図書館	加藤 正之さん	＼
・リクエストと相互貸借	市立北見図書館	遠藤三保子さん	＼
・本は天下の回りもの	千歳市立図書館	田中 秀尚さん	＼
・靴底の下の千円札	美瑛町図書館	高島真由美さん	＼
・道立図書館の支援あつてこそ	蘭越町公民館図書室	松原 展与さん	＼
特集 平成 17 年度全道図書館レファレンス研修会 参加者の声			
・知りたいことはまず図書館へ	岩見沢市立図書館	小木曾柄江さん	No.20 通巻 24 号
・「情報を得る場所」としての図書館へ	湧別町図書館	土佐信太郎さん	＼
・アナログおばさん頑張る！の記	栗沢町来夢 2 1	辻村 淑恵さん	＼
・「自己判断自己責任」型社会における 図書館のあり方について	芦別市立図書館	佐々木 一さん	＼
読み物風・SDI	北広島市図書館	新谷 良文さん	No.21 通巻 25 号
“レファレンス・サービス”という言葉の思い出	札幌市月寒中学校	三上 久代さん	No.22 通巻 26 号
コピー・レファレンス の悪夢	筑波大学	山本 順一さん	No.23 通巻 27 号
小さな学校図書館～総合学科・清水高校の場合～	北海道清水高等学校	高橋 理奈さん	No.25 通巻 29 号
相互貸借について思うこと	恵庭市立図書館	大林 泰子さん	＼

NEWS

1 平成 18 年度上川管内図書館協議会研究集会開催！

11月10日(金)「なんでもわかる図書館へ～上手なレファレンスインタビュー～」と題して、当課宮本が利用者の求める情報を的確に把握する方法について熱弁をふるいました。

2 深川市立図書館、「住民基本台帳カード」を「図書館利用者カード」として活用中！

平成 17 年 10 月から住基カードの多目的利用の 1 つとして、図書館利用者カード機能を組み入れたサービスを提供している深川市立図書館。平成 18 年 2 月からは、貸出以外にも個人の貸出履歴を公開鍵・秘密鍵による強固な暗号化機能によって、暗証番号により確認できるサービスを開始しています。今までのプライバシー保護の観点と利用者の「以前読んだ本をもう一度読みたい」という要望を両立させたサービスで好評のようです。

3 帯広市図書館が「食文化 com.」をホームページに掲載！

食べること、作ること、食生活の背景に広がる歴史、自然、文化など多様な範囲の食に関するリンク集や新たに広報誌「食 ナビ」が掲載されました。「食 ナビ」は食に関するたくさんの資料の中から、毎回テーマごとに本の紹介をしています。その他、子ども向けのリンク集もあります。皆さんどうぞご覧ください。(帯広市図書館HP <http://www.lib-obihiro.jp/>)

4 国立国会図書館複写メニュー・料金の一部変更について

平成 18 年 10 月 23 日から次のとおり変更がありました。

1. 複写メニューの変更

- (1)マイクロフィルムからの電子式引伸印画に、カラー版を追加(プランゲ文庫児童書マイクロフィルムの利用開始に伴うもので、当面、国際子ども図書館のみで実施)
- (2)マイクロフィッシュからの電子式引伸印画に A3 判を追加
- (3)電子情報(電子ジャーナル、CD-ROM など)のプリントアウトに、モノクロ・A3 判、カラー・A4 判を追加しました。(関西館では平成 19 年 4 月から実施予定)

2. 複写料金の変更

- (1)電子式複写(普通コピー)モノクロ・A2 判 1 枚 税込 210 円(税抜 200 円) 税込 100.8 円(税抜 96 円)
- (2)電子情報(電子ジャーナル、CD-ROM など)のプリントアウト モノクロ A4 判 1 枚 税込 25.2 円(税抜 24 円) 税込 21 円(税抜 20 円)

(詳細: 複写料金表 http://www.ndl.go.jp/jp/service/tokyo/data_copyfee.html)

5 日本図書館協会、政策提言をホームページに掲載！

11月16日に日図協が「豊かな文字・活字文化の享受と環境整備 図書館からの政策提言(2006年10月)」をHPに掲載しています。昨年7月の「文字・活字文化振興法」の制定を受け、論議と施策の参考に作製したもので、内容は(1)公立図書館の整備(2)学校図書館の整備(3)大学図書館の充実(4)出版文化の振興(5)活字文化からの疎外をなくす(6)図書館の連携協力の全6章で構成。地域の図書館の面積・蔵書・専任の司書の配置、運営経費と資料費の割合など具体的な数字をあげ、国や地方公共団体に環境整備を行うこと等を求めています。

(本文: <http://www.jla.or.jp/kenkai/mojikatujj200610.pdf>)

6 第10回資料保存研修テキストをホームページに掲載！

国内の各種図書館等の職員を対象に、平成18年10月12・13日に国立国会図書館関西館において、「第10回資料保存研修 - あなたにもできる図書館資料の保護と補修 - 」が開催され、ページ破れ等の簡単な補修、パンフレット製本、参加者が持参した表紙と本体が分離している図書の補修の実習を行いました。その時使用したテキストがホームページに掲載されています。

- ・ 講義テキスト (http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/pdf/lecture_no10.pdf)
- ・ 実習テキスト (http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/pdf/skill_no10.pdf)

7 (財)北海道立文学館、高校用副教材作成！

道内にある有形無形の文学遺産・財産を後世に継承しようと『北海道の文学(仮称)』の編集がおこなわれています。若い世代向けの資料は少ないことから、高校国語科、地歴科の副教材を基本形として、大学生や社会人の学習にも対応できるような資料を目指しています。内容は、アイヌ文学、随想、小説、評論、詩、短歌、俳句、川柳、北海道の言語表現など網羅する予定で、A5判、240ページ、発行部数は600部。来年4月頃をめぐりに道立高校、市町村立高校、市立高校の道内全高校に無償提供する予定。一般にも販売する予定です。

8 市立釧路図書館、来年4月に図書検索・貸出予約開始！

合併を機に2年計画で取り組んでいる光ファイバーを活用した超高速情報通信網「地域イントラネット」の整備が来年1月に終了し、4月からは市立図書館とコミュニティーセンター3館の図書室、阿寒町公民館図書室、音別町ふれあい図書館にて図書検索、貸出予約が実施される予定です。

9 平成18年度第5・6回道民カレッジ連携講座 - 能力開発コース - 開催！

一般の方を対象に2回開催しました。11月10日(金)には「初歩からはじめる図書館活用術」として、図書館の無料の原則について触れたほか、効率よく図書館を利用する方法、インターネットでの蔵書検索の方法、暮らしに役立つ参考図書を紹介しました。今年度最後の講座となる12月8日(金)には「インターネット活用術 - 図書館員が選んだおすすめサイト」として、検索エンジンを上手に使う方法と暮らしに役立つサイトを紹介しました。利用者のネットの習熟度に合わせることの難しさも感じましたが、継続開催の要望が出されたほどの盛況ぶりでした。

10 文化の日「書庫ツアー」大盛況！

11月3日(金)、今年度最後の書庫ツアーの参加者は23名でした。第1・第2書庫を巡るツアーは1時間にわたりましたが、随所で歓声があがり、最後にはもっと資料をじっくり見たいという声が多く聞かれました。

11 市町村図書館職員レファレンス体験研修・開催中！

9～12月にかけて新得町図書館・石狩市民図書館・別海町図書館・市立釧路図書館の方が受講されました。「盛りだくさんで刺激をうけた」「頭が柔らかくなった」など様々な感想をいただいています。一人一人に合ったカリキュラムを組んで研修を行っていますので、ぜひ一度ご参加ください。

12 平成18年度全国公共図書館児童・青少年部門研究集会終了！

10月19・20日に札幌市で行われた研究集会「広げよう！つなげよう！子どもと本と明るい未来」では、旭川市旭山動物園小菅園長より「子どもは動物と本が好き～伝えるのは命～」についての基調講演、(社)日本図書館協会児童青少年委員会坂部委員長より児童奉仕の現状についての基調報告、3つの分科会・全体会をとおして、図書館・学校関係者の枠を越えた地域・住民とのつながりを深める集会となりました。

編集後記

Do-Links もでき、調査が便利になってきていますが、図書館には更に専門性を求められるレファレンスのくることが予想されます。どのようなレファレンスにも応えられるよう努力していこうと思います。今年度はいろいろな方面で図書館界のニュースを目にしました。2007 年が図書館にとって良い年であるよう願います。(T)

今回は執筆の担当がなかったので、一読者として原稿を読み、続けることの大切さをひしひしと感じました。創刊からの参考調査課の努力と寄稿された方の思いを大事にしつつ、次号からまた携わっていこうと思いました。(や)

今号では、連載目次一覧を担当しました。過去の目次とともに記事を見ていくと、ネット環境の時代を感じるとともに、『Do-Re』の歴史をひしひしと感じました。皆さんの協力も多大なパワーとなっています。
今後ともよろしく願います。(え)

今回の特集は、諸先輩の貴重なお言葉がいただけるということで楽しみにしていました。皆様の苦勞を無駄にしないよう日々研鑽していきたいと思えます。(N)

年末の慌ただしい中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝々々。
閑話休題。世の中、変な動きがいろいろあるけど、「これだけは譲れない」とか「これだけは死守だ」という覚悟を持たなきゃいけないと思う今日この頃。(S)

今号で通巻 30 号を迎えました。創刊(平成 12 年 10 月)から関わったものとして感慨もひとしおです。記念特集として道内の先輩司書の方々にご寄稿いただきました。皆さんお忙しい中、貴重な文章を寄せていただき、心から感謝いたします。
さらに特集として、連載枠と市町村図書館の皆さんなど外部の方々からのご寄稿について、目次一覧としてまとめました。本当に多くの方々のご協力によりここまで続けることができました。
今後も誌面の充実に努めたいと思えます。(宮)



Do - Re(どうれ) の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の
略から名付けました。

しかしながら

“どれどれレファレンス”からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do - Re

北海道立図書館レファレンス通信 26(通巻30号)

発行年月日 平成18年12月28日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
